

R4 授業改善プラン（算数）

学 年	・課題（児童の実態）	○具体的な改善プラン
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・数の概念は概ね定着しているが、数の構成の定着はまだ確実ではない。 ・文章題からの立式・答えでつまづく児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○たし算やひき算の計算への繋がりを意識し、反復練習をして定着させるよう指導する。 ○たし算の木・ひき算の木の教材を活用し、キーワードになる言葉に注目させたり、答え方として、数の数え方の学習を繰り返し指導したりする。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し上がりや繰り返し下がりの計算が苦手な児童が多い。 ・式が2つ以上になるなど、複雑な文章問題からの立式が難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎回の授業の最初に、前時の計算問題をおさらいする時間を確保する。また、計算の手順を追いながら、段階ごとに繰り返し下がりや繰り返し上がりが必要かどうか判断して、計算を進められるように指導していく。 ○問題文の求めることと分かっていることに線を引かせたり、具体物を用いたりして問題場面を想像しながら立式できるようにしていく。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーアップタイムで少し底上げができてきているが「かけ算九九」や「時計の読み方」など、既習事項が身に付いていない児童が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、パワーアップタイムで既習事項の確認をしつつ、特にじっくりコースやしっかりコースでは、タブレット端末やプリントを利用して苦手な問題に繰り返し挑戦できる時間を設けていく。特に、問題の解き方を考える授業では、友達の考えを聞き、自分の考えが誰の考えに近いのかを伝え合う機会を設けていく。
4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項が積み重なっていないことにより、計算に対する苦手意識をもつ児童が多い。 ・問題に対して試行錯誤しながら粘り強く取り組むことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の始めに、単元に関連する内容の既習事項を振り返るパワーアップタイムを設け、技能を身に付けるとともに本時の学習内容に見通しをもたせる。 ○「分かった」「できた」という成功体験を積み重ねていけるように、問題提示の方法を工夫したり、児童がじっくりと考える自力解決の時間を確保したりする。
5 年	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパスや分度器の使い方が定着しておらず、正しく作図することが難しい児童がいる。 ・既習事項（特に除法の計算）の定着が不十分な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数用具の使い方について、単元の始めに確認し、継続的に指導する。 ○授業の始めのパワーアップタイムで既習問題に取り組み、既習事項の定着を図る。また、授業に関連するパワーアップ問題に取り組むことで、既習事項を想起し、見通しをもって学習できるようにする。
6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項（特に分数の計算、割合）の定着が不十分な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の始めのパワーアップタイムで既習問題に取り組み、既習事項の定着を図る。また、中学進学に向けて、既習事項を復習する時間を設け、児童が自分の苦手な内容に取り組めるようにする。その際に、タブレット端末も活用して、児童が自ら自分に合った学習スタイルを選択できるような環境を整える。